



# 芝小だより

## 第二月号

発行所 港区立芝小学校  
〒105-0014  
港区芝 2-21-3  
[TEL:03-3456-3072](tel:03-3456-3072)  
[FAX:03-3456-3071](tel:03-3456-3071)



### 残り短い時間の過ごし方

子供たちの発達と分かり方に着目して

校長 齋藤幸之介

子供たちには始業式の際に話をいたしました。三学期はとて短い期間です。よく「二月は逃げる、三月は去る」と申しますが、この二か月間に子供たちが登校するのは四十日弱しかありません。しかし、子供たちは日々の生活で確実に活動しており、それが一人一人の成長につながっていることは御承知の通りです。ときにはミスもありますが、このことも子供たちの礎になりますから、私共は全てを無駄にしないことを心掛けていかないとありません。

その際、大切にしたいことがいくつもあります。特に重視したい二つをお伝えしたいと思います。

### 「発達段階」に着目する一例は「キャング・エイジ」

一年生は、入学時に比べると一層たくましくなり、そこかしこで活発な様子を観ることが出来ます。一方で、教職員の話を聞いて適切に行動する大切さにも気付いており、また友達と関わりながら活動する楽しさも味わっています。

この二、三年生となる一層活発になります。学校での生活の様子からは自信をもって見られることが見取れます。友達とも楽しんで一緒に活動します。その一方で、自分の思いや考えと合う友達が出てきます。このように数名の仲間が徒党を組むかのごとく活動する時期を「キャング・エイジ」と言います。三年生から四年生、もう少し先までを

指す場合もあります。この時期には、仲間が絶対ですから、ときには大人の話を受け入れられないこともあります。「いたすら」も多くなります。叱られる場面も増えることもあります。このような過程を経て、子供たちは徐々に落ち着き、一層多くの仲間を認められるようになる、とも言われています。

さて、私共は、このような発達特性を踏まえながら、それでも子供たちが多くの仲間と上手に関わりながら、素直に教えを受け入れるように、と考えて指導をします。この指導が実を結びようにするにはどうしたらよいでしょうか。

### 子供たちの分かり方の「二つ」について「概念」

子供たちは、ときに言われたことを理解します。しかし、必ずしもそのとは限りず、「何度言われたら分かるの?」と思うことが少なくありません。また、かつて、「分かっちゃいるけど、やめられない」というフレーズが流行りましたが、言葉では分かっている、その意味を実は理解できていなかった、という場合も多々あります。

このことを解決するためには、子供たちの分かり方を捉えておく必要があります。その一例として、「概念」だき」というのがあります。子供たちが二つ二つの事柄の大まかな意味を捉えさせるといつの間に止まらず、事実をよく見詰め、考えることを通じて理解をさせるということです。このときには、大人からの要求と共に子供たちの要求を大切にしなければならぬ、ということ、またこのことを仲間と話し合うことが必要である、とも言われています。

すると、先程例に挙げた「いたすら」はどのように捉えたらよいでしょうか。

まずは、子供たちが「いたすら」をした意味を探る必要があります。きっと「仲良く」やってしまったことでしょう。それが、子供たちの友達や仲良く、という意味であり、これが子供たちの要求です。

これを十分に踏まえた上で、では、本来どうすべきだったのか、を理解させていくことが求められます。ただし、例えば子供たちがキャング・エイジであれば、うまくいかないかもしれません。大人からの要求はどのようにしていけばよいのかが試されるわけです。「ならぬものはならぬ」を強く説けばよいのか。論じていくことが有効なのか。それとも、子供たちに話し合いをさせることが効果的なのか。いずれにせよ、「概念」だき」を念頭に置く必要があると思いますが、いかがでしょうか。

### 子供たちの確実な成長を支えるため

これから先、子供たちは色々な姿を見せてくれるでしょう。それが私共の期待していないこともあり得ます。しかし、それは現状として受け止めることを確認したいと思っています。そして、子供たちは必ずや分かってくれ、行動に移してくれ、という「子供たちの可能性」を信じて適切な指導をしたいと思っています。子供たちが変わったな、成長したな、というときには、子供たちなりの分かり方が叶ったのだ、と捉えることも忘れないようにしたいと考えています。

冒頭にも申し上げましたが、残り少ない時間ですが、四月からの新しいスタートに向け、子供たちの可能性を大切にしていきたいと思っています。